

~長岡京市上下水道ビジョン中間見直し~

第4回資料

令和6年4月26日 14時00分~

長岡京市上下水道事業審議会

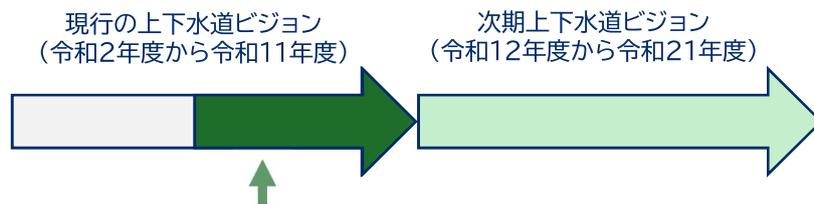


1. 中間見直しの方向性について

中間見直しにあたっての方向性について

「長岡京市上下水道ビジョン」は、令和2年度から令和11年度までの10年間で対象とした事業計画です。

今回の中間見直しにあたっては、後期が始まる令和7年度から目標年である令和11年度までの時点修正とし、令和12年度以降は新たに10年間のビジョンを策定することとしています。



現在の中間見直しは後期5年間(令和7年度～令和11年度)の目標値が対象です

中間見直しスケジュールの再確認

本年度9月末に答申を頂くために、下記のようなスケジュールを予定しております。

時期	審議会・部会	内容
令和6年3月27日	部会(第1回)	中間見直し案に関する確認
令和6年4月26日(本日)	第4回審議会	中間見直し案審議(水道事業)
令和6年5月30日	第5回審議会	中間見直し案審議(下水道事業)
令和6年6月下旬(約1か月)	パブリックコメント	中間見直し案の縦覧・意見公募
令和6年8月上旬	部会(第2回)	パブコメ結果報告と答申原案の確認
令和6年8月下旬	審議会第6回	パブコメ結果報告と答申案の審議
令和6年9月上旬	部会(第3回)	答申案の最終確認
令和6年9月下旬	審議会第7回	答申・今後の審議会運営について

中間見直しの視点①

長岡京市の上下水道事業は整備期をほぼ終え、維持管理の時代を迎えています

《水道事業》

昭和38年給水開始、平成12年に普及率100%

《下水道事業》

(汚水事業)昭和54年供用開始、現在人口普及率99.9%

(雨水事業)昭和61年供用開始、10年に一度の雨量に対応可能な施設整備を進行中

長岡京市の上下水道事業が現在抱えている主な課題

《水道事業》

水需要の減少・老朽施設の更新・再構築、耐震化

《下水道事業》

(汚水事業)老朽施設の更新、耐震化

(雨水事業)浸水被害の軽減

中間見直しの視点②

ビジョン目標の達成と財源の課題(前期中の料金・使用料改定)

10年間のビジョンに掲げている目標は、いずれも避けて通ることのできない事業内容です。しかし、水需要の減少や物価高騰により経営が厳しい状況です。

《水道事業》

令和2年度に5.4%の料金引き下げ

→ 京都府営水道の供給単価変更が後期の令和7年度から改定予定。

《下水道事業》

令和3年度に19.8%の使用料引き上げ

→ 京都府流域下水道の維持管理負担金単価改定が令和8年度に予想される。

中間見直しの視点③

上下水道ビジョンで設定している重点取り組み課題(重点基準目標)

《水道事業》(ビジョン冊子P.59～)

- ・ 水需要の減少
- ・ 老朽施設の更新・再構築、耐震化

《下水道事業》(ビジョン冊子P.124～)

- ・ (汚水事業)老朽施設の更新、耐震化
- ・ (雨水事業)浸水被害の軽減

(第1回審議会資料再掲)

中間見直しの視点④

重点取り組み(重点基準目標)は原則据え置きとして案を作成します。

予想される収入及び財源の調整・確保を工夫し重点取り組みを進める方針を基準とします。

《具体例》

- ・財源の一部として遊休地の売却を積極的に活用する
- ・小水力発電の導入による収入の確保
- ・効率的な改築更新を行う 等

2. 目標見直しの必要性

～ 進行管理のための中間見直し ～

目標見直しの必要性 《水道事業》

《鉛製給水管の解消》

鉛製給水管は腐食による漏水が多いことや鉛の微量の溶出が問題とされたため、現在では使用されていません。令和3年度時点で令和6年度中間時点となる鉛製給水管率の中間目標値を達成しており目標を見直す必要がないと考えます。

《施設の耐震化率》

全体計画において、令和7年度以降に実施予定の東ポンプ場解体工事を行うことも計画に含まれており、実質的に計画どおり令和11年度の100%へ向け計画目標達成に向け進めてまいります。

《経営基盤の強化》

水需要の減少だけでなく令和2年10月に料金を引き下げたことが経常収支比率に影響を与えています。企業債残高対給水収益比率についても目標達成が厳しい状況ですが、期間内に遊休地の売却を行う事で、自己資金残高は目標達成を図ります。

目標見直しの必要性《下水道事業》

《浸水被害の軽減》

後期の5年間は、①いろは呑龍南幹線の全面供用開始、②神足雨水ポンプ場・貯留施設の供用開始、③雨水施設のストックマネジメント事業と、大きな事業が集中しており、資材や人件費の高騰により当初策定時より事業費が大きく増加しています。目標値には変更がないものの、投資計画の変更が必要です。

《計画的な管路整備》

ストックマネジメント計画にのっとり計画的な点検を確実に行うとし、改築更新は高騰する事業費を吸収しつつ実施します。なお、管路調査の点検計画は必須と考え目標値の変更はせず、改築更新計画において調整を行う方向性としています。

《適正な下水道使用料の検討》 → 達成済み

中間見直しシミュレーション

シミュレーションについて

以下の点を中心に、別紙資料でご説明します。

- ① 重点基準目標値について
- ② 投資・財政計画(収支計画)

※物価上昇率1.5%、2.0%、2.5%の3パターンをご提示しています。



部会にてご意見を頂き、反映させた内容となっています。